



安全・安心まちづくり

防犯パトロールの手引き

[第4版]

- 1 防犯パトロール隊を立ち上げる・・・1
- 2 パトロールの準備をする・・・2
- 3 パトロールの方法・・・4
- 4 パトロールのポイント・・・6
- 5 パトロールを活用する・・・8
- 6 パトロールで注意すること・・・10

はじめに

防犯パトロールの必要性

神奈川県では、平成14年に刑法犯認知件数が過去最悪の約19万件を記録しました。県では、県民の皆さんが安全で安心して暮らせる地域社会を築くため、平成17年に「神奈川県犯罪のない安全・安心まちづくり推進条例」を施行し、県と県民の皆さん、そして事業者の皆さんたちによる県民総ぐるみ運動を展開してまいりました。

県内の各地域では、地域住民の皆さんが「自分たちのまちは自分たちで守る。」という自主防犯意識のもと、警察や行政と一体となり、さまざまな防犯活動に取り組んでいただいております。

安全で安心して暮らせる地域社会を維持するためには、これからも地域の皆さんが協力し、さまざまな防犯活動を継続して実施していただくことが、とても重要です。地域の皆さんができる防犯活動のうちで、最も参加しやすく、そして最も効果的な活動が、「防犯パトロール」です。

防犯パトロールは、泥棒を捕まえる活動ではありません。パトロールをしている姿を見せたり、地域の皆さんが声をかけあうことにより、自然に地域のコミュニティが生まれ、犯罪者を寄せ付けないまち、犯罪に強いまちができていくのです。

また、はじめから完全な防犯活動を行う必要はありません。日頃から行っている散歩や運動、挨拶といった日常生活に防犯の視点を加える「ながら見守り」も、地域の見守り活動として重要です。

泥棒が犯行をあきらめた一番の理由が「近所の人に見られた。声をかけられた。」ことです。まちの連帯感が強い地域では、空き巣などの犯罪の発生が少なくなっています。

このマニュアルでは、これから防犯パトロールをしてみたいと考えている方や、すでに防犯パトロールを行っている皆さんのために、どうしたら効果的なパトロールが出来るのかなどをわかりやすく説明しています。皆さんの自主防犯活動によって、安全で安心して暮らせる地域社会を実現しましょう。

1 防犯パトロール隊を立ち上げる

有志を募る

自治会（町内会）やPTA、会社や商店街など、地域に住んでいる方や働いている方で、パトロールに参加できる方を募りましょう。

また、時間に余裕のある方や毎日犬を散歩させている方、地域の安全に関心のある方などにも呼びかけましょう。

役割を決めて計画を立てる

有志の方が集まったら、パトロールを効果的に推進するため、まとめ役や連絡役（リーダー・サブリーダー）を決めましょう。

まとめ役を中心に活動計画を話し合い、どのような目的でパトロールをするのか共通認識を持ちましょう。

警察からの情報を活用する

パトロールは、地域を管轄する警察署や交番が発信する犯罪情報を参考にして、目的に沿った時間や場所を選定しましょう。例えば、空き巣を防ぐのであれば、空き巣が多発する時間帯に住宅街の路地裏を重点的に行い、登下校時の連れ去り等を防止するのであれば、登下校の時間帯に学校周辺を重点的に行うなど、目的や地域の実情に合った方法で実施することが大切です。

パトロール開始を知ってもらう

パトロール方法が決まったら、自治会（町内会）の会合、回覧板、広報紙などを利用して、地域住民の方、地域で活動している防犯ボランティア、地元の会社などに知らせるとともに、パトロールへの参加を呼びかけましょう。

また、地元の警察署のほか、市町村（防犯関係担当課等）にも、パトロールを始めたことをお知らせください。

2 パトロールの準備をする

パトロール活動を円滑に展開するため、次のような準備をお願いします。

警察や自治体等と連携する

パトロールは地域ぐるみの防犯対策であり、警察や関係機関等と連携した活動が効果的です。地元警察署の生活安全課や交番、市町村等に、パトロールの趣旨、方法等を説明し、協力を依頼しましょう。

また、地域の現状を把握することは、効果的なパトロール活動を進めていくための基礎になります。関係機関や地域住民の方から、地域の情報を収集するとともに、関係機関等との情報交換を密にし、実情に即した活動を展開しましょう。

特に犯罪の発生状況は、パトロールを実施する上で、パトロールコースや重点的なチェック項目の選定等に大変参考になるので、警察との情報交換は不可欠です。

パトロール時の服装

パトロールは、運動靴を着用するなど、身軽で活動しやすい服装で行ってください。

また、パトロールを通じて犯罪を抑止するには、メンバーが防犯活動中であることを示した腕章、タスキ等を着用し、パトロール中であることをアピールすることが大切です。さらに、夜間パトロールでは、事故防止のためにも、反射材や蛍光色を使用した服装を心掛けてください。

携行する物品

パトロールのときに用意する服装以外の物品は、次のとおりです。

- 携帯電話・スマートフォン…110番通報や緊急時の連絡用
- メモ用具・カメラ……………犯罪、不審者、危険箇所等の記録用
- 拡声器・拍子木……………パトロールしていることを知らせる
- ホイッスル・防犯ブザー……緊急時の連絡用

なお、パトロール中は両手が使えるように、物品はウエストポーチ等に入れて持ち歩きましょう。

パトロール日誌

パトロールを行ったら、必ず記録を残しましょう。

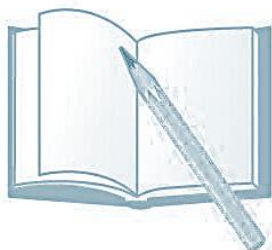
詳細な記録でなくても、実施した時間やコース、パトロール中に気づいたこと等の記録を残し、次の人に伝達することにより、パトロールする人（班）が変わっても注意事項等を引き継ぐことができ、パトロールを一層効果的なものにできます。

またパトロール後、警察や関係機関等と情報交換する際の資料として活用できます。

パトロール日誌の例

参考までに、基本となる項目をまとめました。パトロールの実情に合わせて、工夫してください。

日時	〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇時〇〇分～〇〇時〇〇分
天候	〇〇〇
参加者	〇〇人(責任者△ △)
場所	・ 1コース 〇〇町内会館～〇〇小学校～〇〇町内会館 (〇〇人 リーダー△△) ・ 2コース 〇〇町内会館～〇〇商店街～〇〇町内会館 (〇〇人 リーダー□□)
内容	声かけ、危険箇所の点検、拡声器による広報の実施
パトロール結果	・ 不審者、不審車両なし ・ 〇〇に設置されている防犯灯の電球が切れていた。 要修理依頼 ・ △△に不法投棄自動車を発見。警察に連絡済
記入者	〇〇
備考	



3 パトロールの方法

防犯パトロールは、皆さんが主体となって行うものであり、ここで紹介する方法はあくまで一例です。皆さんがお住まいの地域に合った方法でパトロールをしてください。

目的を明確にする

空き巣の被害防止、通学路の安全点検等、何のためにパトロールをするのか、はっきりと目的を決めて行いましょう。

複数名で行う

2人以上で、できれば4、5人を1グループにしましょう。

複数の目で見ることにより、より多くの危険箇所などを発見できます。例えば、不審な車を発見したときには、1人はナンバー、1人は車の特徴、1人は運転手の特徴など、役割を決めて覚えるようにすれば、きめ細かく確認できます。



犯人の視点で見る

屋外で犯罪にあう方の多くが歩行中や自転車乗車中の方です。徒歩や自転車でパトロールし、犯人と同じ視点で見ることによって、犯罪にあいそうな場所や危険な場所などを確認することができ、注意喚起に役立ちます。危険な場所などのパトロールの結果は、防犯灯の設置を要望する際などにも役立ちます。

声掛けを行う

まずは、「おはようございます」「こんばんは」といった、あいさつだけでも十分です。犯罪者は、地域住民からの声掛けを嫌います。また、地域の皆さんが声をかけ合うことにより、地域の連帯感が一層向上します。

「ながら見守り」などから始める

パトロールは、夕方や夜間だけでなく、朝や昼も毎日行うことがより効果を高めます。

しかし、何事も負担になっては、長続きしません。無理をせず、買い物をしながら、犬の散歩をしながらといった「ながら見守り」から始めるなど、皆さんのできる範囲（時間帯・場所）でパトロールすることが大切です。

例えば、次のような取組も有効です。

- 朝の散歩や犬の運動をする時、仲間を誘って2～3人でパトロール中のタスキをかける。
- お子さんの学校等で会合がある時、何人かで待ち合わせ、パトロール中の腕章をして学校へ行く。



パトロール後には情報交換を

パトロールの結果は、パトロール日誌などを活用して情報交換することによって、危険な場所の改善、子どもやお年寄りへの注意喚起など、犯罪の起きにくい地域づくりに役立ちます。

また、一定期間毎に、警察から地域の犯罪発生状況の情報を得て、パトロールの効果について検証しましょう。それに基づいて、実施時間や巡回場所などの変更をしてみるのも有効です。

情報を広げる

パトロールの結果からわかった危険な場所などについては、警察から提供された犯罪情報とともに、回覧板や掲示板を利用して広報し、地域住民の方に向けて注意喚起することも重要です。

パトロールから知り得た危険な場所や注意する場所などを地図に示した『地域安全マップ』『交通・防犯マップ』等を作成し、地域に配布することも犯罪や事故の抑止につながります。

4 ▶ パトロールのポイント

「見せる防犯」を行う

犯罪者がパトロールに気付かなければ、犯罪の抑止効果がありません。また、地域全体での防犯意識の向上にもつなげるため、周囲にアピールしながらパトロールすることが重要です。そのため、のぼりを立てたり、揃いの腕章、タスキ、帽子などを着用して視覚に訴えたり、あいさつ、声かけや拍子木などで聴覚に訴えるなど、いろいろ工夫してアピールをしてください。

「ただいまパトロール中です」などと声をかけながら歩いたり、掲示板などに「パトロール実施中」といった掲示をするのも効果的です。

積極的にあいさつする

過去の調査結果によれば、泥棒などが犯行をあきらめた理由の第1位は「近所の人に見られたり、声をかけられたから」でした。

泥棒の多くは下見をしています。「おはようございます」「こんばんは」といった、積極的なあいさつ、声かけは効果絶大です。



見慣れない人・車に注意する

見慣れない人がいたら、あいさつをして様子を見ましょう。不審に感じた場合は、相手と離れてから警察に通報してください。その際には相手の顔、体格、服装などの特徴を覚えておきましょう。

不審な車を発見した場合は、ナンバーや車の特徴などをメモしておくことも重要です。また、放置されたバイクや自転車は、盗難や犯罪に悪用される可能性があります。安全のため、見つけた時には、速やかに警察に通報しましょう。

犯罪の現場を目撃した場合には無理をせず、身の安全を優先したうえで警察(110番)へ通報してください。

犯罪が起こりそうな場所に注意する

街灯が少なく暗い道路は、犯罪が発生する危険性が高い場所です。そういった道路には防犯灯の設置を依頼したり、沿道の家庭に門灯の夜間点灯を協力してもらうなどして、暗がりをなくしましょう。また、街灯が壊れている場合は、速やかに管理者に修理を依頼しましょう。

公園などで、周囲から死角になっている場所も犯罪発生危険性が高い場所です。管理者に常夜灯の設置や樹木の剪定、雑草の草刈りなどを依頼して、見通しをよくしてもらいましょう。

子どもやお年寄りへの声掛けを

小さな子どもを狙った犯罪が懸念される場合は、小学生などの登下校の時間帯に、通学路を中心に巡回しましょう。その際も、積極的にあいさつし、不審な人や車がないか確認しましょう。

小さな子どもがひとりで遊んでいるのを見かけたときは、周りに不審な人物がないことを確認して、「なるべくひとりでは遊ばないようにね」「知らない人について行っちゃだめだよ」「危ない時は大声で叫ぶんだよ」などと声をかけてあげてください。

お年寄りや女性が人通りの少ない道を歩いているのを見かけたときは、「なるべく人通りの多い道を選んで歩いてください」「バッグを車道側に持たないでください」など、ひったくりなどに対する注意を促してください。

自転車に乗っているのを見かけたときは、「防犯ネット」や「防犯カバー」をカゴに取り付けるように勧めてください。

5 パトロールを活用する

日常のパトロールを有効に活用して、安全・安心なまちづくりに取り組むことが大切です。ここに、いくつかの例を掲載しますので、皆さんがお住まいの地域に合った活用方法を試みてください。

活動を周知する

犯罪者は、地域住民の結束を一番恐れています。皆の結束により犯罪対策を強化したことを示す「防犯パトロール重点地域」や「防犯パトロール巡回中」等の看板を街の中に表示する試みは有効です。

これから犯罪を行おうとする者に対し、このまちでは犯罪を起こさせないことを知らしめましょう。

地域安全マップを作成する

パトロールをした後の情報整理として、犯罪多発地帯等を地図上に明記する「地域安全マップ」を作成してみましょう。

防犯活動を地域全域で行うのは困難でも、犯罪多発地帯を中心に防犯活動をすれば、効率的なパトロールを行うことができます。

住民同士で犯罪者に狙われやすいまちの弱点を探し、積極的に犯罪対策を講じましょう。



パトロールカードを活用する

「パトロールカード」とは、地域住民に防犯上注意をしてもらいたい事項やパトロール活動中に気付いた点などをメモ書きしたカードのことをいい、パトロール活動中に各家庭に配布して回ります。

「パトロールカード」は、地域住民の自主防犯意識の向上を促すとともに、安心感を与える効果があります。

パトロールカードの例

パトロール カード

本日、この町内でパトロールを実施しました。
空き巣に注意を！！泥棒は必ず下見をします。
犯罪を未然に防ぐため、次の点に注意しましょう。

- 塀や生け垣、庭木が高く、泥棒が身を隠す場所を提供する形となっています。
庭木を剪定したり、見通しのよいメッシュフェンスにすることをお勧めします。
 - 家の周りに、侵入の足場となるものが置かれています。
上階への足場となるものを撤去したり、上階の防犯対策をしっかり行うことをお勧めします。
 - 新聞が溜まっています。泥棒に留守であることを知らせています。
新聞はこまめに取り込み、長期間留守にするときは配達を止めましょう。
 - 建物周辺が暗いようです。
外灯やセンサーライトを設置することをお勧めします。
- ★泥棒の多くは、窓からの侵入を試みます。
主錠のほか、補助錠を取り付けたり、防犯フィルムを貼るなど対策をとりましょう。
- ★防犯に大切なのは、地域住民の皆さんの目です。
ご近所同士で声を掛け合って、明るいまちづくりを心掛けましょう。

〇〇町内会 パトロール隊

防犯パトロールに関するQ&A

Q 街中で長年放置され、壊れかけた防犯看板を見かけますが、効果があるのでしょうか？

防犯上、逆効果です。

A 壊れかけた防犯看板の放置は、犯罪者の目には、その地域の防犯意識の欠如と映ります。こうした看板は、パトロールの際にチェックし、設置者に連絡しましょう。

Q 「地域安全マップ」は、どのように作成したらいいの？

犯罪者が好むのは、「人通りが少ない」、「ゴミゴミしている」、「障害物が多い」、「照明がない(少ない)」などの場所です。

A こうした場所と過去の犯罪データを地図上に記入することで、犯罪多発地帯や犯罪が起こる可能性が高い場所が浮かび上がってきます。さらに交通事故多発地帯や通学路、子ども110番の家などの情報も併せて記入することで、活用の幅がぐっと広がります。

6

防犯パトロールで注意すること

交通事故に気を付けましょう

パトロールの際には、周りの状況に注意し、交通ルールを守って事故にあわないように注意してください。

夜間は、白っぽい服装や夜光ベストの着用、反射材の活用など、できるだけ目立つ服装で、集団で行動してください。

不審者等を見つけたら警察（110番）へ通報を

声をかけたり、無理して捕まえようとしないでください。

※公衆電話や携帯電話からでも、110番通報ができます（市外局番はいりません）。通報を受けた警察官は順を追って次のことをお尋ねしますので、あわてずに答えてください。



- ・何がありましたか？…空き巣、ひったくりなど
不審者目撃の場合は、具体的な行動を教えてください。
- ・いつですか？………たった今、〇〇分前など
- ・どこですか？………市区町村名、番地、目標物など
- ・犯人はどんな人でしたか？……人数、服装、特徴、凶器の有無など
- ・犯人は何を使って逃げましたか？…徒歩、自転車、自動車など
- ・逃げた方向は？………〇〇通り、〇〇駅方向など

このほか、事件の内容により、さらに詳しくお尋ねすることがありますが、通信指令室では、皆さんからの110番通報を受けている間にも、現場に最も近いパトカーやパトロール中の警察官を現場に急行させています。

プライバシーを守りましょう

パトロールで知り得た個人に関する情報は、決して漏らさないようにしましょう。

パトロール中に写真等の記録をとる場合も、個人のプライバシーに配慮しましょう。

防犯ボランティア向けの「事故給付金」のご案内

神奈川県では、防犯活動ボランティアの方々、その活動中の事故等により負傷した場合などに、給付金を支給する制度を設けています。事故給付金の支給にあたっては、事前の団体登録と書類の提出が必要です。詳細については、県くらし安全交通課のHPをご覧くださいか、045-210-3520までお問い合わせください。

防犯パトロールに関するQ & A

Q パトロール隊は何人ぐらい必要なの？

A 多くの人に参加すれば、1人あたりの負担は軽減されます。パトロールの方法や目的により異なりますが、例えば3人一組で毎日1回パトロールをしても、21人以上集まれば、週1回の参加でOKです！

Q 活動計画ではどんなことを決めればいいのか？

A パトロールの方法、時間、場所、班の編成などの基本的なことを決めておきましょう。無理なく長続きできるように、地域の実情に合わせて弾力的に運用しましょう。

Q 危険なことはないでしょうか？

A パトロールの目的は、地域の皆さんが自らの手でまちを守っていることを示すことです。無理をしないで、事件や事故にあったら、すぐに警察に連絡してください。

安全・安心まちづくり
防犯パトロールの手引き [第4版]

令和8年3月6日 発行

発行者：神奈川県 暮らし安全防災局 暮らし安全交通課
〒231-8588

横浜市中区日本大通 1

電話 (045) 210-1111 (代表)

HP <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/f5g/index.html>